

## 第5章 西駒郷の施設整備計画

### 1 現状と課題

西駒郷は、約16万㎡の広大な敷地の中に管理棟、6つの居住棟、訓練棟及び作業棟などが点在し、また、太田切川を挟んで管理部と更生訓練部・保護部（入所更生施設）が駒ヶ根市に、生業部（入所授産施設）が宮田村に設置されています。

西駒郷は、建築後30年以上経過し、施設や設備の老朽化が進んでいます。また、居室の多くは4人部屋で、1人当たりの床面積は3.3㎡程度と狭隘です。さらに、利用者の高齢化、障害の重度化、多様化が進行しています。

これらの課題を解決するため、新たな居住棟を建設するとともに既存の居住棟の改修を行い、利用者の居住環境を改善していきます。

### 2 将来像の概要

西駒郷の役割や将来像については、第3章で明らかにしたところですが、施設の利用計画を考える上で、10年後の将来像について整理します。

西駒郷の大まかな将来像は、60～100人規模の入所更生施設（通所部併設）と60人程度の通所授産施設です。

なお、将来像は利用者の地域生活移行の状況により、また社会環境の変化等に対応できるよう、施設整備計画を含めて平成18年度に見直しを行います。

#### （1）入所機能

利用者の地域生活移行を進め、定員60～100人の入所更生施設とし、入所授産施設は廃止します。

施設が老朽化しているため、平成18年度を目途に、新たな居住棟（60人規模）を1棟建設するとともに、既存の居住棟についても必要な改修を行います。2棟目の新たな居住棟の建設については、地域生活移行の状況により、平成18年度の見直しまでに検討します。

#### （2）通所機能

在宅の障害者を積極的に支援するため、通所更生と通所授産の機能を持ちます。通所更生は、入所更生施設の通所部として20～40人規模とします。

通所授産は、当初、入所授産施設の通所部として開始し、入所授産施設の廃止後

は、通所授産施設として運営していきます。規模は60人程度となりますが、利用者の利便性を考慮して将来的には分場の設置も検討します。

### 3 各施設の利用計画

利用者の地域生活移行が進み、定員規模が縮小していきますので、ここでは、新たな居住棟の建築場所を含めて将来的にどのエリアを使うのか、また、既存の施設をどう活用し廃止していくのかを明らかにします。

#### (1) 全体利用計画

西駒郷の大まかな将来像は、60～100人規模の入所更生施設（通所部併設）と60人程度の通所授産施設です。

入所更生施設は、駒ヶ根市の管理棟の周辺に集約することとします。これは、重度棟である「ひまわり寮（保護部）」の利用者が他の居住棟で生活するためには、相当の施設改修が必要となることと、既存の居住棟の中では「ひまわり寮」の建築年が一番新しく又鉄筋コンクリート造でもあることから、将来的には「ひまわり寮」を通所部や訓練棟として継続して利用できるためです。新たに建築する居住棟の建設候補地としては、訓練棟の西側の農地が適当と考えています。

最終的には上記のとおりですが、地域生活移行が計画どおり進んでも5年後の平成19年度末には、約190人の利用者が生活していますので、既存の居住棟を活用していかなければなりません。「あすなる寮（更生訓練部）」も鉄筋コンクリート造ですが、廊下が狭く老朽化が最も進んでいるので、「ひまわり寮」に次いで生業部の3棟、「しらかば寮」「さつき寮」「まつば寮」を優先的に利用していきます。棟別利用計画は、45頁のとおりです。

訓練は、当面現在の訓練棟を利用することになりますが、「ひまわり寮」が居住棟として利用しなくなった時点で改修し、新たな訓練棟として利用していきます。

通所授産施設は、宮田村の作業棟を利用していきます。休憩室等は、当面、作業棟の一部を活用しますが、利用者数や作業内容の状況により「しらかば寮」等の一部を利用していきます。

#### (2) 居住棟の利用計画

既存居住棟の最大の課題は、8畳程度の部屋に4人が生活していることです。これまでも、室内の仕切や1人使用など、4人部屋の解消に努めてきましたが、1人

当たりの占有面積が狭く根本的な解決には至っていません。国の施設基準も、平成15年度から1人当たり面積が3.3㎡から6.6㎡(約4畳)に改正されています。

地域生活移行を計画どおり進め、平成16年度中に更生訓練部と生業部の居住棟で4人部屋を解消し、平成18年秋に改築棟(60人)の利用を開始し、平成18年度中に全ての居住棟で1～2人部屋となることを目指します。

### 居住棟の利用状況

生業部				保護部				更生訓練部			
部屋の形態		部屋数	入居者	部屋の形態		部屋数	入居者	部屋の形態		部屋数	入居者
まつば寮	3～4人定員	14	35	ひまわり寮	2人定員	6	10	あすなる寮	洋室・個室化	30	25
しらかば寮さつき寮	4人定員	50	182		4人定員	12	43		4人定員	40	117
自活訓練	個室	4	4	自活訓練	個室	-	-	自活訓練	個室	21	21
合計		68	221	合計		18	53	合計		91	163

(平成15年7月1日現在)

また、それぞれの居住棟は老朽化していますので、利用者の生活環境を改善するため、必要な改修を行っていきます。

全体的には、利用者の高齢化等に対応するため、玄関等の段差解消、トイレの洋式化など、居住棟及び訓練・作業棟のバリアフリー化を順次進めていきます。

居室の改修については、平成18年度に改築居住棟が完成し、「あすなる寮」を廃止する予定ですが、その時点で「あすなる寮」で生活していた更生訓練部の皆さんが生業部の居住棟へ移ることになりますので、生業部の「しらかば寮」などの居室を改修する必要があります。

地域生活移行が計画どおり進んだ場合、平成18年度中には生業部の各居住棟についても3人部屋が解消され、2人部屋になる予定ですので、自閉症など個室が必要な方のためには、室内の仕切や1人使用など個別空間の創出に努めていきます。

#### ア あすなる寮(更生訓練部)

平成16年度中に4人部屋を解消し1～3人部屋とし、平成17年度中に1～2人部屋とする予定です。

改築棟が完成する平成18年秋には2階部分を廃止し、1階部分は平成18年度

末には廃止する予定です。

#### イ ひまわり寮（保護部）

地域生活移行により、4人部屋を解消していきますが、改築棟ができる平成18年秋に1～2人部屋とする予定です。地域生活移行が計画どおり進んだ場合は、平成23年度までは居住棟として利用し、その後は訓練棟及び通所部として利用する予定ですが、地域生活移行の状況によっては、平成23年以降も居住棟として利用します。

#### ウ しらかば・さつき・まつば寮（生業部）

「まつば寮」は、すでに3人部屋となっていますが、平成17年中には2人部屋とする予定です。

「しらかば寮」と「さつき寮」については、平成16年度中に4人部屋を解消し、改築棟ができる平成18年秋に2人部屋とする予定です。

「まつば寮」は男女棟併せて14部屋50人定員で、「しらかば寮」や「さつき寮」と比べて小規模な施設ですので、今のところ、「まつば寮」を平成19年度まで利用し、その後「さつき寮」を平成20年度まで、「しらかば寮」を平成22年度まで利用する予定です。

地域生活移行が予定以上の速度で進んだ場合には、「しらかば寮」を最初に利用廃止し、位置的に近い「まつば寮」と「さつき寮」を活用することも検討します。

### （3）敷地内における自活訓練・生活体験

施設での生活が長い利用者が地域生活へスムーズに移行できるように、引き続き敷地内における自活訓練を実施していきます。平成16年3月1日現在、アカシアホームとアジサイホームで更生訓練部の利用者19人が自活訓練を行っており、今後は、他の部の自活訓練にも活用していきます。

また、地域生活移行についての聴き取り調査において、障害が重い等の理由で聴き取り困難な利用者がおいででしたが、障害が重い方でも自活訓練や生活体験ができるよう「ほほえみ棟」の改修を行います。長期の自活訓練ができない方でも、短期間の自活訓練が体験できるようにするとともに、体験を繰り返し、障害が重い方の地域生活移行を支援します。

## 4 新たな居住棟の建設

### (1) 施設の概要

地域における生活の場等を整備するとともに、自活訓練等により利用者の地域生活移行を支援していきませんが、地域移行できずに西駒郷に残る利用者もおいでになると思われますので、地域生活支援機能を備えた入所施設が必要です。また、入所施設は、少人数単位のユニットケアなど利用者個々の生活を大切にした居住環境が望まれています。

そこで、新たに建設する居住棟（入所更生施設）は、1人部屋を原則とし、10人程度を1単位とするユニットケアを支援の基本的な形態とします。利用者の高齢化、障害の重度化と多様化に対応できるようにユニバーサルデザインを意識するとともに、できるだけ自然採光を取り入れ、明るく開放的な空間を確保します。

定員については、できるだけ早く既存の居住棟で2人部屋となるよう60人とします。

建設場所については、管理棟とひまわり寮のある駒ヶ根市側を予定します。

構造については、木造または木質化を最大限進めた鉄筋コンクリート造の平屋建てとし、木のぬくもりが感じられる施設とします。また、駒ヶ根市は地震防災対策強化地域であり耐震性に考慮したものとします。

### (2) 施設整備スケジュール

平成16年11月頃までに設計を完了させ、平成16年度末から必要な土工事に着手し、平成17年夏頃には本体工事に着手します。構造にもよりますが、平成18年秋頃の利用開始を目指します。